

関根浜及びその周辺地域漁業 振興調査サケ稚魚海中飼育試験

(要 約)

小倉大二郎・横山 勝幸・工藤 敏博・金田一拓志
福田 慎作・横谷 要一・長津 秀二 ^{**}

この調査は、県が日本原子力船研究開発事業団から委託され昨年度より実施しているもので、当センター魚類部が担当したサケ稚魚海中飼育試験の概要について述べる。なお、詳細は「昭和58年度関根浜及びその周辺地域漁業振興調査結果報告書、青森県、昭和59年3月」を参照されたい。

試験の目的

関根浜及びその周辺地域へのサケ回帰資源の増大を図るために、海中飼育技術の導入による親魚回帰率向上の実証試験を行い、今後の外海域での海中飼育事業の資料とする。

58年度の状況

1. 大畠地先

大畠漁港孫次郎間の水深3~3.5mに20m×20m、深さ1.2mのフロート生簾を3ヶ統(A~C群)設置し、大畠川ふ化場産のサケ稚魚計3,116千尾を海中飼育し、放流した。

A群：標識魚(脂鰭+左腹鰭切断)105千尾を含む1,086千尾を海中移植。昭和58年4月13日~5月10日の27日間海中飼育して放流。

B群：10,304尾を海中移植。昭和58年4月26日~4月30日(時化により4日間)海中飼育して放流。

C群：1,000千尾を海中移植。昭和58年5月12日~5月25日の13日間海中飼育して放流。

2. 野牛地先

東通村野牛漁港内の水深3m地点に、前記のフロート生簾1ヶ統(D群)を設置し、大畠川ふ化場産の標識魚(脂鰭+右腹鰭切断)1,054千尾及び県営赤石川さけ実験ふ化場産(北海道卵後期群)の稚魚400千尾の計505千尾を海中飼育し、放流した。

D群：昭和58年4月23日~5月13日の20日間海中飼育して放流。

3. 59年度分の準備

海中飼育施設として、更にフロート生簾1ヶ統を準備した。

稚魚の標識は、大畠地先分140千尾(脂鰭+左腹鰭切断)、野牛地先分120千尾(腹鰭+右腹鰭切断)の計260千尾を大畠川ふ化場(大畠町漁協)で実施した。

*大畠地方水産業改良普及所

**むつ地方水産業改良普及所